

1. 略歴

1983年3月	東京大学文学部印度哲学印度文学専修課程卒業（学士）
1983年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻修士課程入学
1986年3月	同大学院（印度哲学印度文学専攻）修士課程修了（修士）
1986年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻博士課程進学
1990年3月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学印度文学専攻博士課程単位取得退学
1991年4月	日本学術振興会特別研究員（～1993年3月）
1998年4月	愛知学院大学文学部日本文化学科 助教授（～2004年1月）
1998年10月	博士（文学）の学位取得
2004年1月	愛知学院大学文学部日本文化学科 教授
2010年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

仏教学、東アジアの仏教及び日本仏教に関する研究及び瞑想に関する研究。

b 研究課題

東アジアにおける仏教の研究。特に日本仏教における修行、学問に関する研究を行っている。学問に関わるところでは、古代の論義に関する研究を南都に残された法会資料、具体的には『法勝寺御八講門同記』を用いながら考察を進めており、古代から中世に掛けて行われた仏教教理に関する論争に焦点を当てている。また修行道に関する研究は、東南アジアや東アジア世界に伝わる止観と呼ばれる修行の実際に注意を払いながら、東アジア世界に残された文献資料を用いて、修行道の内容を明らかにすることを目指して研究を進めている。さらには心理学、脳科学の分野の先生方と共同することで、仏教の伝えた修行の現代的な意義を明らかにするべく研究を進めている。

c 概要と自己評価

2020年4月からは2022年3月までの間は、科学研究費（挑戦的研究）で研究代表者を務め、「仏教学、心理学、脳科学の協同による仏教の止観とマインドフルネスの実証的研究」と題して、三年間の予定で研究を進めた。これはコロナのために一年延長したが、2022年3月で終了することができた。この成果を公にするために2021年3月には臨川書店から編著として『仏典とマインドフルネス』を刊行した。本書は観察を行っている際に生じる負の反応に、どのように対応するのかを軸に論じたものである。そのほかにも、『心理学評論』にも、依頼論文であるが仏教の観察について論じたものを掲載することができた。このように、仏教の伝える瞑想（心身の観察）に関する研究は、順調に進めることができたと思うが、それ以外の領域に対する研究が、若干、遅れ気味であると言わざるを得ない。また、2016年度からアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の部門長としての任務が続いており、こちらに多くの時間を割かざるを得ない事態が続いている。たとえば、『法勝寺御八講問答記』の翻刻研究はOCRを用いた入力研究も兼ねているが、若干の進展しかできていない。日本の戒律に関する研究は、唐招提寺を中心に思想的な展開を再考している。多少、仕事が過剰気味と思われ、また広げた仕事が多くなりすぎている感があるので、この点を調整することを、同じく今後の課題としたい。

d 主要業績

(1) 著書

- 共著、伊藤邦武/山内志朗/中島隆博・納富信留、『世界哲学史4』、「鎌倉時代の仏教」、筑摩新書、2020.4
共著、船山徹監修、『シリーズ実践仏教5 現代社会の仏教』、「瞑想のダイナミズム—初期仏教から現代へ」、臨川書店、2020.5
共著、袁輪顕量、『村上專精と日本近代仏教』、「〈大乘非仏説論争〉再考—村上專精の意図」、法蔵館、2021.2
編著、『仏典とマインドフルネス』、臨川書店、2021.3
共著、袁輪顕量、『日本宗教史2 世界の中の日本宗教』、「仏教と妻帯」、吉川弘文館、2021.3
単著、袁輪顕量、『瞑想でたどる仏教一心と身体を観察する』、NHK出版、2021.4

(2) 論文

- 袁輪顕量、「中世における仏身論の展開」、『仏教文化研究論集』、20、40-61頁、2020.3
袁輪顕量、「禅観経典に見る心の負の反応に対する対処法」、『宗教研究』、94別冊、169頁、2020.12

蓑輪顕量、「天台智顛に見る心の負の反応への対処法」、『インド哲学仏教学研究』、第29号、1-26頁、2021.3
蓑輪顕量、「日本における玄奘の門下生に見る修行道—道昭と行基」、佐久間秀範等編『玄奘三蔵—新たなる玄奘蔵を求めて』、259-271頁、2021.12

蓑輪顕量、「仏教学から見たマインドフルネス」、『心理学評論』、Vol64, No.3, 354-362頁、2022.2

蓑輪顕量、「日本の初期法相宗に見る修行—道昭・行基・徳一を中心に」、『日本印度学仏教学研究』、vo.72, No.2, 2022.3

(3) **学会発表**

国内、蓑輪顕量、「古代法相宗に見る修行—道昭、行基、徳一を中心に」、日本印度学仏教学会第72回学術大会、オンライン形式（大谷大学開催）、2021.9.4

(4) **啓蒙**

蓑輪顕量、「仏教における身体性について」、『参禅の道 曹洞宗参禅道場の会 会報』、76、5-21頁、2022.3

(5) **会議主催（チェア他）**

国際、「Mindfulness and Cognition」、実行委員長、online、2021.3.15

(6) **マスコミ**

「瞑想でたどる仏教」、NHK Eテレ、『こころの時代—宗教・人生』、日本放送協会（NHK）、2021.4.18

3. **主な社会活動**

(1) **他機関での講義等**

非常勤講師、放送大学、「仏教思想—原典に学ぶ」、2020.11、2021.11

セミナー、公益財団法人 JR 東海生涯学習財団、「第85回「歴史の歩き方」秘密の教え—最澄と空海の伝えたもの」、2020.11

特別講演、韓国・金剛大学校、「The Development of the practice in the Buddhism」、2021.12

特別講演、駒沢女子大学、「瞑想でたどる仏教—心と体を観察する」、2021.12

特別講演、龍谷大学世界仏教文化研究センター、「最澄の考える菩薩道」、2021.12

特別講演、日本マインドフルネス学会第八回大会（於琉球大学）、「マインドフルネスと慈悲」、2021.12

(2) **学会**

国内、日本印度学仏教学会、理事

国内、日本宗教学会、理事

国内、比較思想学会、理事

国内、日本仏教総合研究学会、理事